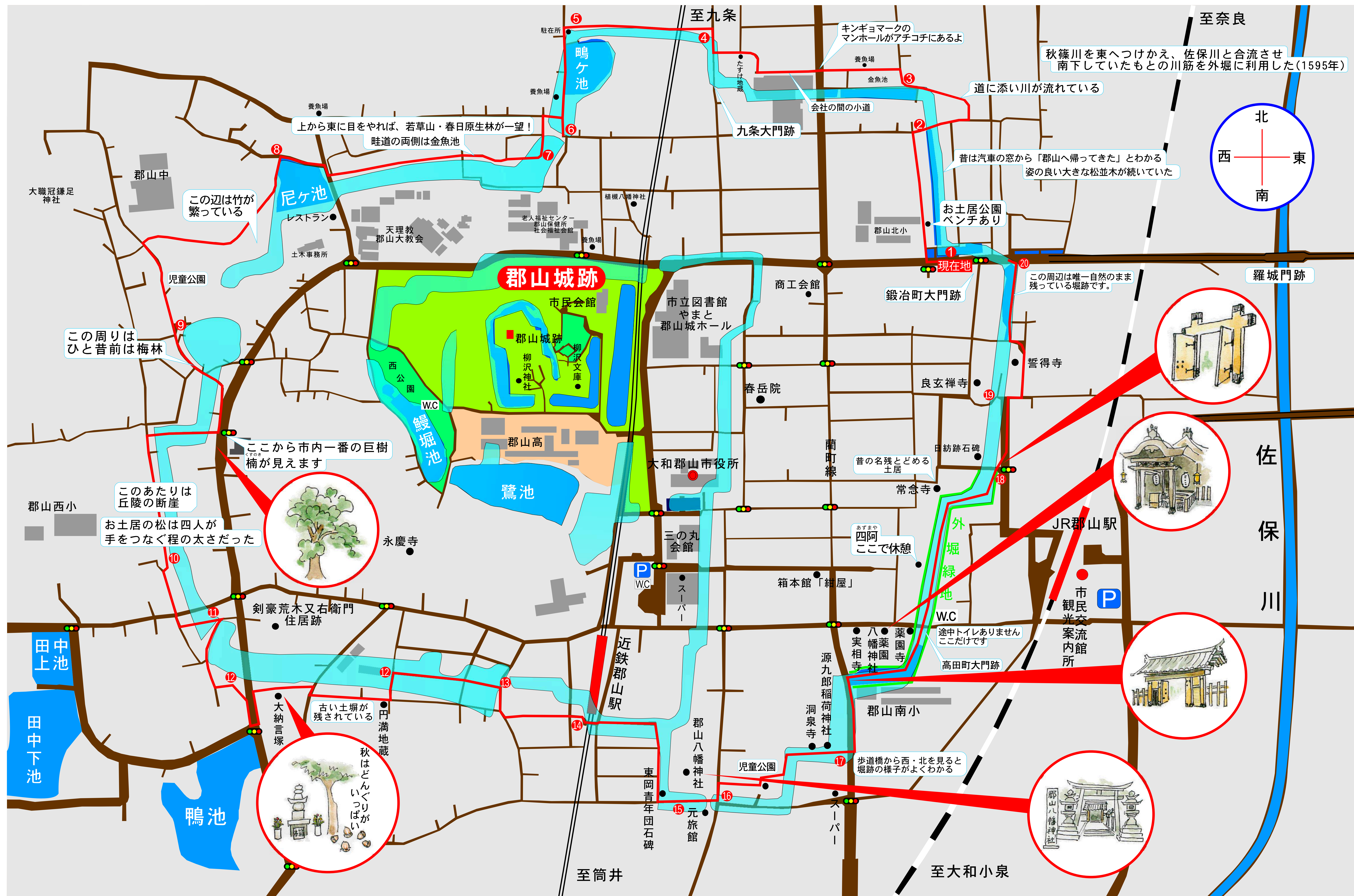


郡山城外堀案内板



郡山城外堀

天正13年(1585)、豊臣秀長が紀伊・和泉・大和の三国を領有する百万石の太守として郡山城に入り本格的な城づくりをはじめました。秀長のあと、文禄4年(1595)増田長盛が二十万石で入城し、城下全体を取り巻く全長50町13間(約5.5Km)の外堀の普請を行いました。

すなわち、東辺では、秋篠川の流れを奈良口で東へ付け替え佐保川に合流させて旧流路を外堀として利用し、西・南・北辺では丘陵の断崖や谷や凹地を巧みに利用して堀を作りました。堀の内側には土塁を築き、高さは高いところで約4.5mもあったといわれています。

かつて城下町を取り囲んでいた外堀も住宅などに転用され、その多くが失われましたが、水路・溜池・緑地などとしてかつての外堀の面影を残している部分も少なくありません。

そこで、その部分に石碑を建立し、また、外堀緑地公園、治水対策の特定保水池などの整備を進めることで、外堀の存在を後世に伝える活動を行っています。

大和郡山市観光協会

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 広島下池 | 11. 西矢田辻番所跡 |
| 2. 広島浅池 | 12. 箕山裏池跡 |
| 3. 小川町裏池 | 13. 高塚池跡 |
| 4. 正願寺上池 | 14. 矢田筋裏池跡 |
| 5. 代官池 | 15. 八幡堀池跡 |
| 6. 鳴ヶ池 | 16. 柳町大門跡 |
| 7. 番鐘池 | 17. 洞泉寺裏池跡 |
| 8. 尼ヶ池 | 18. 常念寺裏池跡 |
| 9. 蛇ヶ池跡 | 19. 宮本上池 |
| 10. 大職冠裏池跡 | 20. 高付上池 |

郡山城外堀跡

約 420 年前の天正 13 年(1585)豊臣秀長が紀伊・和泉・大和の 3ヶ国を領有する 100 万石の太守として郡山城に入り、本格的な城造りを始めました。秀長の後を継いだ増田長盛が城下全体を取り巻く総堀りの普請を行い、全長 50 町 13 間(約 5.5 km)の外堀を完成させました。

かつて城下町を取り囲んでいた外堀も、宅地などに転用され、その多くが失われましたが、水路・溜池・緑地などとして、かつての面影を残している部分も少なくありません。そこでその部分に石碑を建立し、また外堀緑地公園や洪水対策の特定保水地として整備を進めることで外堀の存在を後世に伝える活動を行なっています。又神社の裏や堀の横に残る土居にも注意して昔を偲んでみよう。

☆堀の幅員は、正保 1 年(1644 年)に作成された「正保年間和州郡山城絵図」による。

1. 広島下池(下池、上池)

郡山北小学校の東側にあつて、鍛冶町の北端から西観音寺町を過ぎ西奈良口町の南端に及ぶ長い L 型の堀。堀の幅は広いところで 9 間(16.2m)狭いところで 6 間半(11.7m)。

☆ お土居公園(おどえの松)

堀の土を内側に土をもって「土手」を築いて松や竹を植えた。このあたりには大きな松の木がそびえていて、「おどえの松」と呼ばれて遠くからの目印となっていた。

堀の内側に高く土盛をした土手を「お土居」とよんだ。

2. 広島浅池. 幅は 7 間

☆広島町 元和 5 年(1623)に改易になった福島正則の浪人広島衆を、時の城主松平忠明が召抱えて住ませたのが町の始まりでありこの地名がつけられた。

3. 小川町裏池 幅は 9～10 間(16.2～18m) 西側は埋め立てられている。

☆小川町 豊臣秀長の家老・小川下野守(35,000 石)が屋敷を設けたのが町名の由来。

4. 正願寺上池 堀の幅は 7 間、西側に土居の竹やぶが残っている。

平成 17 年度の市の事業で、洪水対策の一環として特定保水池整備事業が行われた。

この施設は、歴史的文化遺産でもある郡山城の外堀跡を利用し、市民の憩いと潤いをもたらし、大雨の時には、下流の市民の安全確保を目的としたものです。

水深は、約 1.6mで最大約 1,800m³の水を貯めることが出来る、

5. 代官池

堀の幅は 8.5 間(15.3m)あり、傾斜地なので中仕切りがある。

蟹川流域の浸水対策の一環として特定保水池整備事業が行われた(平成 14 年度)。

治水容量: 約 4400m³、水深約 4.2m

☆代官町 本多政勝が寛永 16 年(1639)に武家屋敷を増設し、内 13 軒に代官を住ませたのでこの名がついた

6. 鳴ヶ池（シギガイケ）（地元の人はシンガ池と呼んでいる）
北郡山土地改良区が管理している。防火用水としても活用、幅は 40 間（72m）
南半分が埋められて、土地改良区の事務所や地蔵堂が建てられている。
7. 番鐘池 西側の県道から見ると正面に春日山・左に若草山・右に高円山と続き、その前景に金魚池が広がり、抜群の眺めである。鳴ヶ池と尼が池を結ぶ長大な堀で、幅は、6 間（10.8m）の所と 23.5 間（42.3m）あったが、東側大部分が宅地化。
8. 尼ヶ池 大和大納言・秀長公が大職冠の社を遷したまう時、地形の用として土を取りしあとなり」と「郡山町旧記」にある。幅は 50 間（90m）、現在は溜池
9. 蛇ヶ池跡 一名大職冠池ともいわれ、城の外堀に利用され、貞享年間(1684-87)の「郡山城絵図」によると東西 43 間、南北 30 間、周囲 2 町 26 間とある。昭和 36 年から 40 年にかけて埋め立てられ、現在は住宅地になって南郡山町に属している。
池の底には、蛇ヶ池伝説の元になった大きな石があるといわれています。
10. 大職冠裏池跡 幅は 7 間（12.6）から 13 間（23.4m）の長い堀。土居には、4 人が手をつないでもいっぱいの大きな松の木が植えられていたようである。
11. 西矢田辻番所跡 町境の道路に木戸を設け番所を置いて警戒を厳重にしていた
町内には 10 ヶ所の辻番所があった。
12. 箕山裏池跡 殆んど宅地化されている。幅は 7 間（12.6）から 8 間（14.4m）。
13. 高塚池跡 幅は 2 1 間(37.8m)
14. 矢田筋裏池跡 幅は 7 間半～8 間(13.5～14.4m) 昭和 20 年頃埋立。
15. 八幡堀池跡 幅は 9 間（16.2m）で、柳八幡神社の西側と南側を L 型に包み、南側の東端は柳町大門に接していた。神社の裏山に外堀跡の土居が残存。
16. 郡山城外堀・柳町大門跡 柳町の通りには、南大和に通ずる高野街道への要所に当るので、柳 4 丁目と 5 丁目の境に大門を設置して、外来者等に注意を払い、厳重な警戒体制を布いていた。門は、慶長年間(1596～1615)に、伏見の惣門を移築したものと伝えられている。門の勤番は町民の責務で、大門附町割によって、柳 1 丁目から 5 丁目までと、堺町・豆腐町・車町の町民が交代で勤番することになっていた。
17. 洞泉寺裏池跡 幅は 8 間（14.4m）現在スーパー駐車場・マンション、
18. 常念寺裏堀跡 、幅が 7 間（12.6m）外堀緑地公園として整備されている。

☆ 外堀緑地公園

郡山城外堀の一部（常念寺裏堀・薬園寺裏池・材木町裏池等）を城下町郡山にマッチした形で全長 580m・水路循環用堀・四阿、厠を設置し、金魚の放流やフリマーケットの開催等市民の安らぎの場として整備（1997 年 4 月竣工）。

北門に冠木門（太い 2 本の柱の上に横木を渡した木戸の様式）、

南門に高麗門（外堀に設けられた 4 箇所の大門のうちの柳町大門の様式）を配す。

19. 宮本上池 本多氏の菩提寺の良玄禅寺の裏手に当たる。幅 8 間(14.4m)
20. 高付上池 幅は 7 間（12.6m）の堀で、当時の面影を最も残している。

☆鍛冶町大門跡 城外に通じる重要な通りに4つの大門を設けて厳重な警備をした。
京街道・奈良街道に通じる要所であるので鍛冶町大門を設置（大門は東面して建立）
東西の道路は平城京九条大路の跡である。

（みちしるべの会）